

万葉図書・情報室だより58号

『古事記』の歌謡

『古事記』といえは、神話や天皇の話というイメージがあるかと思いますが、歌も112首載せられています。『万葉集』の巻一は84首ですから、『古事記』の歌だけで一卷にできそうなくらいの分量です。

『古事記』上・中・下の三巻のうち、神話をまとめた上巻にも、8首の歌が入っています。最初の歌は、ヤマタノヲロチを退治したスサノヲが宮を作り、クシナダヒメと結婚する際の歌です。「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣作る その八重垣を」。大切な妻を籠もらせる宮が、多くの垣に守られていることを歌うものです。繰り返しが多く覚えやすい歌ですね。『古今和歌集』に「すさのをのみことよりぞ、みそもじあまりひともしはよみける」と言われるとおり、31音になっています。

『万葉集』と同じく奈良時代成立の

『古事記』も、漢字ばかりで書かれています。漢文のような部分もあります。歌については一字一音のいわゆる「万葉仮名」表記になっています。「夜久毛多都 伊豆毛夜幣賀岐都麻碁微爾 夜幣賀岐都久流 曾能夜幣賀岐衰」。すべて音を表すため、「夜」「久しい」などの意味は含みません。

正格漢文を目指して書かれている、といわれる『日本書紀』でも、歌は仮名で書かれます。「夜句茂多兔 伊努毛夜霸餓岐 免磨語味爾 夜霸餓枳都俱盧 贈迺夜霸餓岐廻」。

『古事記』と同じ歌ですが、使っている文字が違いますね。中国的な発音の反映かと考えられています。(この最後の「廻」は「多」の仮名とされていますが、近年「を」の仮名であるという論が出ています。)

漢字で音を表す「万葉仮名」は、『万葉集』に多数の例があるためそう呼ばれますが、『古事記』・『日本書

紀』・『風土記』の歌もほぼすべて仮名で書かれています。やはり歌は「音」に還元できることが重視されたのですね。どんな歌があるのかについては土橋寛『古代歌謡集』(岩波日本古典文学大系)にまとまっており、どの作品でどのような万葉仮名が使われるのかについては『時代別国語大辞典 上代編』の巻末に一覧表があります。

『古事記』は神・天皇の物語であり、歌はその一部ですが、物語の中に出てくる歌は登場人物の声として臨場感たっぷり響きます。ストーリーとともに歌を味わう、という点では原文ではなく書き下し文でよむことをおすすめします。西宮一民『古事記』(新潮日本古典集成)や、次田真幸『古事記全訳注』(講談社学術文庫)が読みやすく、注も充実しています。

『古事記』が編纂された天武天皇・元明天皇の時代は、『万葉集』の時代とも重なります。同じ歌や、類似した語句など、共通点があることも面白いですし、『万葉集』にはない物語に即した歌というのにも魅力です。

(主任研究員 阪口由佳)

新着図書案内

☆女たちの壬申の乱

(水谷千秋/文春新書)

☆六国史 ー日本書紀に始まる

古代の「正史」
(遠藤慶太/中公新書)

☆奈良平安時代史の諸問題
(木本好信/和泉書院)

☆万葉を楽しむ

高岡市万葉歴史館論集20
(高岡市万葉歴史館/笠間書院)

☆洛中洛外 春夏編 秋冬編

(安野光雅/産経新聞出版)

利用案内

開館時間 午前10時～午後五時半

休館日 1月曜日(祝日の場合は翌

平日)・年末年始・展示替日

図書室のご利用は無料です

閲覧でのご利用になります。

コピーサービス 白 黒 一枚 10円

カラー一枚 50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室

奈良県高市郡明日香村飛鳥一〇

0744-54-1850(代)